

兵庫・明舞団地に住んでみる

編集委員 嶋沢 裕志

明舞団地（兵庫県明石・神戸市）に住んでいると、次第に「若者」が新鮮に見えてくるから不思議だ。しかし、高齢化団地の日常の中で、わずかに空気の変化が生じたことが分かる。

平日の午後、商業施設「明舞センター」2階の一室に、兵庫県立大学の学生が集まってくる。神戸市西区のキャンパスからバスで約15分。2009年1月、空き店舗に開設した「明舞まちなかラボ」だ。つえや手押し車、電動車に頼る高齢者が多い光景の中で、彼らは異彩を放っている。

昨年11月25日。ラボをのぞくと、経済学部の和田真理子准教授（43）ゼミの4回生7人が卒論の中間報告を行っていた。「公務員試験の勉強をやっている、地方分権がむっちゃ面白かった」と佐藤典生さん（22）。鈴木美喜さん（22）は「孤独死の実態を調べるため自治会長らにヒアリングした」。やがて3回生が合流し、団地のクリスマスイベントで披露するクイズの相談を申し

街に飛び出した大学



商店街の空き店舗の「ラボ」は団地再生を考える場（神戸市垂水区対口台）＝写真 高谷隆

世代間交流、互恵の胎動

そこに始めた。「まちなかラボ」は空き店舗対策と世代間交流を狙った県の二石二鳥作戦。これに呼応する形で、県立大経済学部が出店を決めた。自身、明舞象論でなく現場で認識するこ

とで学生が育つ」と話す。当初、団地で「異星人」と思われた学生たちも存在感を増してきた。ラボでは非営利組織（NPO）、行政の担当者らを招いて公開ゼミを開催。昨秋の「世界団地博 in 明舞」では、親子で遊べる「コーナー」を運営し、団地内の食へ歩きマップも作製。「ダンチガメ」

大学と団地の連携、高齢化の進む団地と地域貢献を推進する大学の連携が各地で広がってきた。高島平団地（東京・板橋）では、大東文化大が空き部屋を借り上げて学生に貸し、ボランティア活動などの地域貢献を条件に家賃を補助する。豊四季台（千葉県柏市）では東大が柏市、都市再生機構（UR）と共同で、団地の建て替え計画に合わせた長寿社会のまちづくりを考える研究会を立ち上げた。

加藤教授。ある時、80代の男性がラボに現れ、「たまに来てワアワア騒いで帰るのはけしからん」と学生に2時間説教して帰ったが、電話で丁寧なラボの趣旨を説明すると「応援団」に変わってくれた。「空気の変化」の証左だ。団地と大学の関係も「やや無理やりなラボ」（加藤教授）から互恵関係へかじを切った。昨年末には和野ゼミが「団地住民の生活の質アンケート」を実施。加藤ゼミは住民の購買行動を詳しく調査。今後1年かけて団地の老人にインターネットを使ってもらい、生活の質がどう変わるかを検証する社会実験も行う。この春には学生主導で「明舞」を発行する。兵庫県は11年度から「県営住宅を活用した学生シェアハウス」や、学生の起業を視野に入れた「若者の活動拠点支援」も検討中だ。また、県立大に加えて、神戸学院大学社会リハビリテーション学系が「まちなかラボ」に加わることになり、今月14日には両大学共催で「明舞セミナー」を開く。

「国... 地... あまり... 無関心... の活動... を変え... 思いで... 地方... 線で議... 通信簿... ンティ... 神奈川... 喜さん... 定年ま... 職した... れて職... るつも... 田原... 会をよ... のは... とをお... そして... っと運... 子ども... なの... きま... の夢... 中記